

る公共の事を自分に支配するものなりと云ふも可なり、左れば今、満堂の學生諸君は今日こそ塾門に入學して教場の教を受け塾則の支配に屬すと雖も、學成り熟を去るときは終身熟員と爲り又維持員と爲るべきは無論、誕生の故郷は何れの國、何れの地にあるも學育の故郷は東京三田の慶應義塾に在り、學問研究の辛苦も義塾に在り、親友談笑の快樂も義塾に在り、失策も義塾に在り、得意も義塾に在り、一苦一樂一談一笑終身の紀念は塾に在る日に多くして終に忘るべからざるものなれば此の學育の故郷たる本塾の氣風として美ならしむると醜ならしむると其の利害の歸する所は他にあらず、唯諸君の自身に在るのみ、慶應義塾の塾風腐敗して、懶惰なり、粗野な

り、無智なり、不徳なりと云はんには諸君も斯る腐敗塾に居るを快しどせざるや疑ひなしと雖も其の之をして腐敗せしむる者は誰ぞや、塾生を計へ盡せば塾を見ず腐敗の責の歸する所明に知るべし、老生は唯諸君の身の利害に訴へ其の自ら重んじて君子の風を存し以て本塾を君子にせんことを祈るものなり或は大勢の學生中に二三の粗暴者、醜行者あるも衆目を瞞着して通過すべしとの計算は全く無益の沙汰にして之を喻へば百圓一束の紙幣中に二三片の賈札を加へて通用と祈るに異ならず、世間の衆目穎敏にして一枚の賈札を許さざるのみならず其の一枚の不良なるが爲に他の九十九枚までも疑念を被むるを常とす故に本塾の學生中不幸にして其の言行の鄙劣なる者あ



らば其の譏りは本人の一身に止まらずして學生全体の榮譽に關し、取りも直さず、學育の故郷を汚がすものなれば同學の義務として相互に之を責めざるを得ず、抑も老生が學生に向て求むる所は多くして酷なるが如くなれども任すること重ければ責も亦大ならざるを得ず、老生を始めとして教員役員の人々が學生を視ること死物の如くして其の心身を束縛して自由を許さず之を鞭撻して進退左右せしめんとなれば必ずしも其の心事の如何を問はず唯表面の塾法に従て温順なれば以て満足すべし學生も亦此の熟を視て仮りの宿と認めれば却て安氣なるべしと雖も、左りとは貴重なる日月を費して學塾に居りながら卑屈の習慣を養ふに異ならず學ぶ者の本意に背くものと云ふ

べし、故に老生は諸君に向て在學中、塾法に従ふは勿論管に之に従ふのみならず更に一步を進めて塾の一部分は銘々の私有なり之を集むれば共有なりと覺悟して苟も自治の旨を忘るゝなからんことを勸告する者なり、諸君を責むること酷に似たるは畢竟之れを重んずるが故なり吳くも自ら輕んじて身を汚し隨て學育の故郷を辱かしむる勿れ(福澤諭吉)

○首唱者開會の演說 (出征兵士送別會に於て)

義勇奉公の精神に富める出征兵士諸君の爲に聊か送別の宴を開きましたる所が、圖らずも熱心なる有志諸君の同情を得て近來稀れなる



盛況を呈せしは、本會の光榮此上なく、我々首唱者は熱き同情を寄せられたる來會者諸君に對して偏に感謝せんければなりません、却て諸君よ、諸君と我々と軍國の際なるにも拘らず其の家業を稼いで居らるゝ所以のものは誰のお蔭でせう、耳には霞と降り來る彈丸の響も聞かず目には紅葉染めなす血河屍山の慘状も見ず、寢るに夜具あり、坐るに疊あり、憩ふに家あり、着るに着物あり、三度の食事も腹便々と食べて以て光陰を送る所以のものは抑も誰のお蔭でせう（ハテナ……）我々の喋々を待たず之が兵士のお蔭です兵士諸君の力と言はんければなりません（同感）先づ我心を得たり若し其れ一旦兵の力が國を去りたりと仮定したらんには如何でせう、兵士諸君の力が

國家と離れたとしたらんには如何でせう、云ふまでもなく野蠻極まる露國の爲に蹂躪られ、踏倒され、家でも財産でも夜具でも衣類でも皆剝ぎ取られたる其上に猶ほ叩かれたり、縛られたり、強姦せられたり可愛い女房や子と一處に居ることも出来んでちりぐばらぐと蜘蛛の子の散るが如く、嘆かはしく、痛ましく、悲しき慘状を目に見る事は申す迄もなく隨て諸君と一處に今日此席に會合するが如きことも出来ず亦家業を安樂に稼ぐ事も出来んです（然り）、其説最も然り）果して然らば兵士は實に國家の柱石で有て國民の擁護者と謂はんければなりません（然り）國民の財産生命を保護する者と謂はんければなりません（然り）國旗に光を添へて國利民福を増進する者



と謂はんければなりません(ヒヤ〜大ヒヤ〜)ですから我々も最も兵士を愛せんければなりません兵士諸君を愛せんければなりません(同感)今後益々兵士諸君を愛すると同時に敬で來會者諸君の一方ならざる御厚情を感謝致します(ヒヤ〜大ヒヤ〜)

資料

御多忙の時節柄にも拘らず有志諸君が萬障擲て御來會下さったことは本會無上の光榮で有て首唱者一同の感謝する所でありませう却説諸君……○本日は之れ如何なる會でありませう他なし、出征兵士諸君が奮て滿洲戦地へ行かんとして其れを送らん爲に開きたる送別の會でありませんか我々は出征兵士諸君に向て感謝せんければなりません○本日開會するに當て有志諸君が奮て御臨席下さった御厚意は首唱者一同の喜悅する所であると同時に又兵士諸君が切角御光來下さったも何の御馳走のなき事を深く謝せんければ

なりません○雨は肅々として一天掃き曇りたるもお厭ひなく奮て御來會下さうた其の山海も音ならざる御厚意を感謝致します○諸君出征後は眼中決して一物を措かず、唯だ措くものは國家の二字を以てせられんことを、國家の二字の爲には矢石も畏れず彈丸も憚らず文明の敵、正義の敵、公道の敵、併て遼東還附の大敵たる露軍を蹴倒し蹴殺し踏倒し以て二十世紀の勇頭に花々しき功名を願はされんことを○望みを將來に屬して以て兵士諸君の名譽と健康とを祈るさ同時に來會者諸君の盛意盛情を感謝致します

○出征兵士送別會の演説

(193) 日本と露國とは到底兩立することの出來んものと我々は信じます、兩立せんとしたならば晩かれ早かれ到底戦争は免れんものでありま



す(然りく)戦争するならば今が最も適切なる時期であります、  
 は申す迄もなく敵の軍備未だ十分ならざるを以ていす、敵の羽翼が  
 未だ十分東亞に伸びざるを以ていす(お説の通り)若しも敵の羽翼が十分  
 に伸び、敵の軍備が十分整ふたる曉には滿洲は彼れに奪はれ朝鮮は  
 彼れの手に取りられ我國は如何にアセリ如何に力味で見え所が最早仕  
 方の無いことは我々の喋々を待んで賢明なる兵士諸君の知らるゝ所  
 でせう(然りく)其れ然り、故に我國は今回飽まで露國に打勝んけれ  
 ばなりません、露國の羽翼を殺んければなりません、露國の東方經  
 略を根底より顛覆して復た起つ能はざる様にせんければなりません  
 (其説最も然り)實に今回の戦争は天下分け目の戦争にて二千五百年來未

だ曾て有らざる大戦争であります、故に我れ露國を打斃さすれば露  
 國我を打斃すことは鏡に懸けて見る如くであります(露助打てく打斃  
 せ)嗚呼、光輝ある二千五百年來の歴史を潰すも此秋にあります  
 亦二千五百年來の歴史へ層一層の色彩を輝かすも此秋にあります  
 露國に打敗けて其の屬國とならんか我々の堪へ忍びざる所でありま  
 す、露國に打敗けて其の奴隸と爲らんか祖先に對して何の面目かあ  
 る(然りく)ナニ糞此の露助め、彼れに負けるものか(如かず露國を打斃して以  
 て積る怨みを打晴らすと同時に豊榮昇る日章旗を烏拉の山東へ蹴へ  
 さんには……之れ山田隆一君等の最も期する所で有て國民の等く願  
 ふ所であります(ソーともく)願くは山田君よ、親愛なる隆一君よ



出征萬里彼の地に到らば靴で蹴るべし烏拉山、刀で斬るべしコザツク兵以て赫々たる威勳を樹て芳名を千載に傳ふると同時に我が郷里の名をも社會の表に揚げられんことを敬で君が勇ましき首途を送り併せて健康と名譽とを祈る(ヒヤ〜大ヒヤ〜)

資料

名譽の裡には苦心慘憺の情ありとの諺の如く諸君今後の心悟察するに餘りあり○乍併、請ふ畏るゝ勿れ志ある者は事竟に成る、志ありて天下得て成

らざるもの有らんやです○本日は之れ山田君が蹴起一番劔を提けて遠征萬里の途に上らんとして其れを送らんが爲め聯か祖道の小宴を開きたるのであります○私は感じます、山田君に就て感じます、何んとなれば山田君は出發の際に臨みて一滴の涙をも枯ふさざるのみならず却て無上の名譽とし

て意氣揚々之れより露國を傳ち馳さんと致しますから○帝國の獨立は益々益々固かるべし帝國の富強はより益々盛大なるべし帝國の武勳はより益々輝くべきのみでなく隨て諸君の名譽も是より益々光彩を發して天下公衆に羨望せらるゝこと決して今日の比の如きでないといふ余は確信して疑はないのであります

○同 首唱者開會の演説 (同其二)

雨蕭々として一天搔き曇りたるにも拘らず遠近の諸君奮て御來會下すつたのは實に本會の光榮で有て我々首唱者の篤く感謝する所であります、借、目出度市川様の首途に向て我輩が一言せんも敢て僭越ではありますまい、如何に不肖の我輩と雖も亦國民であるを以てなり、國民の爲に行くべき市川様の御精神こそ天晴感服です(感服〜大



にしては國家の爲め小にしては我々國民の爲め敵の矢彈を的に受け  
 貴重の生命を陣頭へ棄てんとする之れ市川様の本領で有て日本魂實  
 に爰に存すヒヤ〜大ヒヤ〜嗚呼誰か生命を惜まざる者なからん乍併  
 ら市川様は寧ろ一身の生命を棄て、も我々國民、並に、我が國家を  
 泰山の安きに置んものと古の忠臣義士にも優りたる御勇壯、御精神  
 で今行くのであります(然り〜)ですから我々國民たる者は充分  
 熱心に之が首途を送らんければなりません(同感)满腔の熱誠を捧げて  
 之が名譽と健康とを祈らんければなりません(同感)〜大同感請ふ市川  
 様よ、時正に午熱天を焼て金石爲めに鏢けんとする時候なれば努め  
 て國家の爲めに珍重御自愛せられんことを拍手喝采滿場を動かす)

本書の熟語

雨船々 アメガフリテ 満腔 インプイ 熱誠 ネットシ  
 珍重 タイセツニ スル 陣頭 イクサ バ 精神 コ、ロ 御自愛 タイセツニ  
 本領 (心)モチマヘ 感謝 オン レイ 贅辯 ヨケイナ オシヤベリ 腹便々 ホテイサンノ、ロ  
 貴重 タツト イ 同感 私モソフ 思フ 感服 カン シン 然り〜 ソーダナイ  
 慘状 イタマシキ アリサマ 保護 タキチ マモル 喋々 ベチヤ〜 シヤメル ノー〜 ソーダナイ  
 萬障 多クノ サシツカヘ 擁護 マモル 喃喃 イロ〜 云フ ヒヤ〜 ソーダナイ  
 請ふ ネゴイ 切望 ヒタスラ ノゾム 生命 イノチ 血河屍山 イクサ  
 霖雨 ナガ アメ 泥濘 ドロ カユ 借越 ヨリコエテル 立錐の地 チ立テルホドノ地

○戦死者へ對する演説



私は此の會葬の場に臨みて悲愴急ち胸に滿ちて言はんとする所を知らんのです、回顧するに日露端なく干戈を相交ふるに至るや藤村様は意氣激昂、老親の在るをも顧みず一家の生計の如何をも顧みず唯だく忠義の一徹に入重の沙路を蹴立てつゝ敵艦所在地へと突進したのであります、爾來旅順の海戦に參加して雨と霰と降り來る敵の十字火の下に奮戦致されましたり或は狂瀾の上怒濤の間を乗切て港口封鎖の任務に就れたり或は敵塞の下に強襲偵察をお遂げなされたり或はバルチック艦隊撃滅に御加りなされたり一として九死の間を出入して悽絶愴絶の感を吾人に與へざるものはありません、吾人は此の名譽ある戦捷兵、此の光輝ある藤村様と早晚手を握て其の勇戦

の偉勳を激賞し其の快談壯語を耳にして共に帝國の光榮を祝せんものと今日の今日まで相待て居たのです、今日只今まで遙か西天を望んで相待て居た所が天何ぞ無情なるや余をして歔歔流涕、涙巾を沾ふすを覺へざるに至らしめました、嗚呼私の望みは水泡に歸しました私の望みは畫餅となりました眞に空頼みでした之を如何ぞ失望せず居られませうや之を如何ぞ泣かずに居られませうや、好し私の思ひは空頼みと成り私の望みは畫餅に歸し水泡に歸し去ても、私は熱き涙を忍んで可と致しますが乍去ら國家今日の有様を如何にしませう國家安危の分るゝ今日藤村様の如き愛國の御精神に富める者、義勇奉公の念の熾なる者、忠義骨髓を填ひる軍人の儀表たる者が我



が軍人社会の名簿より引抜かれ我が軍人社会より復た其人を見るを得ずとしたならば如何でせう、唯に私の歎歎流涕する斗りでなく瀧場の會葬者も恐らくは余と其感を同ふするのでありませう(此時會場慘として悲哀の涙に沈まざるなし)嗚呼年取たる御兩親のあるをも顧みず生計の如何をも顧みず彈丸雨飛の間、砲火號發の下に一死以て國家に報じたる藤村様の如き者は天晴忠臣と謂はんければなりません能く其の本分を盡したる者と謂はんければなりません後世子孫の模範である、と謂はんければなりません、然れば藤村様其人に於ては亦遺憾はないのでせう、残念はムらぬでせうなれど我々は斯る忠義の者が生存へて怨み累なる露國を打斃し早く宣戰の御詔勅を貫徹し陛下の御軫

念を安しく奉らざるを遺憾として一に天道の無情を啣つと同時に國家の爲に痛く惜んで已るのであります

資料

六月炎天火の如き程を奔走し三冬風荒れて白雪の野に奮戦せしも敢て風せず却て以て快と爲して日本男子の本領を發揮せられしも今や則ち見ゆることは出来ません〇一念茲に至ります時は感涙袖に絞らざらんとすれど得んのです〇乍去ら人誰か死なからん空しく生きて草木禽獸と居らんよりは寧ろ芳名を千載に傳へて後世子孫の鑑となる力が優りて居ります君は能く此の事を実行せられた者と謂はんければなりません

兵事 學術 演說 例題 終  
附脩 辭資料



明治三十八年九月十五日印刷  
明治三十八年九月十二日發行

正價金廿錢

巽 青 年 會 編 纂

不許複製

發行者 東京市日本橋區通四丁目七番地 西村寅次郎  
印刷者 東京市神田區美神保町十番地 大嶋寛治  
發行所 東京市日本橋區通四丁目 東雲堂書店



發行所東雲堂

文學士山岸辰藏先生著

正價金卅錢

日清會話

獨習

正價金卅五錢

室直哉編

忠勇傑作詩選詳解

正價金廿錢

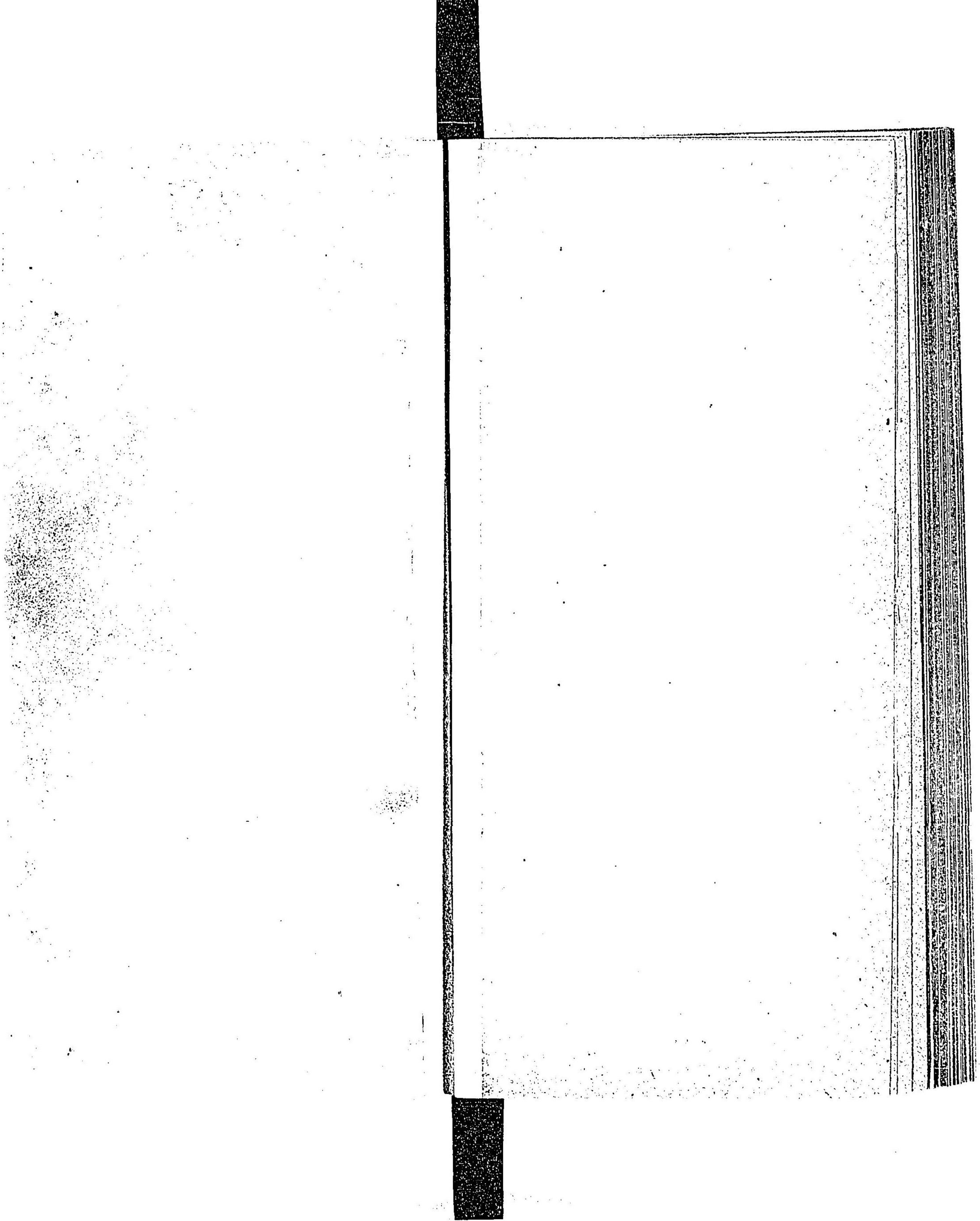
山崎弓束先生著

中學國語字典

正價金卅五錢

賣捌所各書林

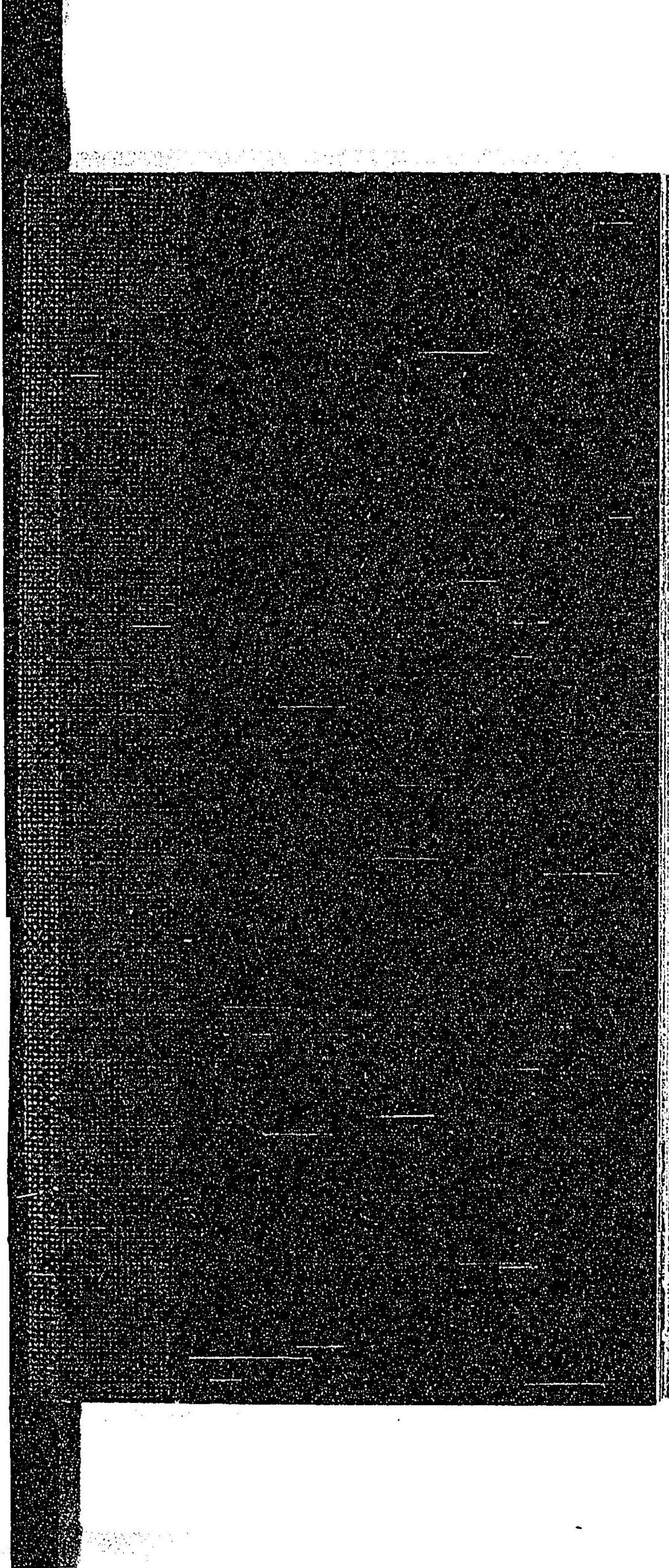














特30

329

兵事  
學術 演說例題

国立国会図書館

076817-000-3

特30-329

兵事學術演說例題

巽青年会 / 編

M38.9

DAB-0175

